

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40
41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77
78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110
111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138
139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166
167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194
195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40
41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77
78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110
111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138
139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166
167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183

A01 A02 A03 A04 A05 A06 A07 A08 A09 A10 A11

社会共創センター
社会連携研究成果報告書
2024



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

社会共創センター
社会連携研究成果報告書
2024

地域連携事業	4
産学連携事業	26
連携協定事業	42

人に夢を。 地域に活力を。 ビジネスに未来を。

金沢美術工芸大学の創造力を、 あなたの事業にお役立てください。

金沢美術工芸大学では、社会共創センターを拠点に、
広く企業や研究機関・公共団体などとの連携活動を
推進しています。



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37			
38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54			
55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71			
72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88			
89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104				
105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117							
118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130							
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143							
144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156							
157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169							
170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182							
183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195							
196	197	198	199	200	201														

地 域 連 携 事 業

202	金沢 JAZZ STREET 2024 メインビジュアル作成	6
203	庁舎前デジタルサイネージに表示する時報コンテンツの制作	7
204	金沢マラソン 2024 完走メダルのデザイン作成	8
205	児童館フェスティバル 文化・芸術ワークショップ 「おばけたちから世界をまもれ！～自分だけのヒーローライトを作ろう～」	9
206	まちの格を高める広告物調査	10
207	ホスピタリティアート・プロジェクト 第 34 回 光の回廊シリーズ 14 『おいしい能登』 作品展示・ワークショップ	11
208	ホスピタリティアート・プロジェクト 第 35 回 第 13 回 ホスピタルギャラリー	12
209	大学連携地域力創造プロジェクト	13
210	橋場町バス停の行き先案内サイン	14
211	たべまっし野菜 350 ロゴ / POP のデザイン	15
212	ごみの減量化・資源化への取組を推進する認定マーク	16
213	木の文化都市・金沢ロゴマーク制作	17
214	金沢市立病院の再整備に向けた空間デザイン検討事業	18
215	金沢ふらっとバス車両デザイン	19
216	穂田神社授与品（お守り）のデザイン	20
217	問屋町活性化事業	21
218	第 37 回 JAPAN TENT に係る T シャツ及び広報物のデザイン	22
219	石川県立図書館トートバッグのデザイン作成	23
220	第 38 回 金沢刑務所 矯正展	24

第 15 回目を迎える「金沢 JAZZ STREET 2024」では、初めて金沢美術工芸大学と連携し、視覚デザイン専攻 4 年生の橋本珠くさんのデザインが採用された。デザインコンセプトは「金沢のみんなで奏でるジャズ」。学生からプロまで幅広い人々が集い、ジャズを演奏するこのイベントの魅力を表現するため、サックスを持った女の子を中心に、さまざまな楽器を演奏する多様な年代・性別の人々が描かれていて、誰もがイベントの活気を感じられるデザインとなっている。今回のメインビジュアルは好評を博し、次年度の制作依頼も決定している。



市長報告



市長報告



市長報告



メインビジュアル

[委託者名]	
金沢市文化政策課	
[期間]	
2024 年 3 月～ 2025 年 3 月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
寺井 剛敏 教授	デザイン科 ホリスティックデザイン専攻

[参加学生]		5 月 7 日	データ提出
橋本 珠く	視覚デザイン専攻 4 年	5 月 7 日	学内学生 4 名から 4 案を市役所へ
角田 大輔	視覚デザイン専攻 4 年		＝橋本の案で決定
山本 彩香	視覚デザイン専攻 4 年		メインビジュアルデータ作成
北 恭輔	視覚デザイン専攻 3 年	5 月中旬	
[開発日程]		5 月 28 日	市長報告 記者発表
2024 年			
4 月 17 日	市役所にてオリエンテーション		
4 月 18 日	金沢時計で候補学生画像を市役所へ		
4 月 23 日	学生 4 名へオリエンテーション		

金沢市では、庁舎前広場のデジタルサイネージにて、平成 30 年度から時刻を知らせる動画コンテンツ「かなざわ時計」を表示している。今年度で 7 年目となる「かなざわ時計」は、金沢美術工芸大学デザイン科ホリスティックデザイン専攻の 2 年生 8 名が、「映像テクニック」の授業課題として制作に取り組んだ。10 月 25 日からの放映開始にあたり、試写会を開催し、村山市長が制作に携わった学生たちと交流をおこなった。現在、「かなざわ時計」は 1 日 8 回、毎正時（10:00～17:00）に表示されている。



市長挨拶



学生作品上映



学生作品上映



取材を受ける学生

[委託者名]	
金沢市広報広聴課	
[期間]	
2024 年 4 月～ 12 月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
寺井 剛敏 教授	デザイン科 ホリスティックデザイン専攻
下浜 臨太郎 非常勤講師	
デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	

[参加学生]	
鹿島 佑和	ホリスティックデザイン専攻 2 年
垣内 有人	ホリスティックデザイン専攻 2 年
菅野 なな江	ホリスティックデザイン専攻 2 年
鈴木 望夏	ホリスティックデザイン専攻 2 年
辻ノ上 真綾	ホリスティックデザイン専攻 2 年
鳥井 菜七子	ホリスティックデザイン専攻 2 年
中尾 涼夏	ホリスティックデザイン専攻 2 年
西村 菜子	ホリスティックデザイン専攻 2 年

[開発日程]	
2024 年	
6 月～ 10 月	講義及び制作期間
10 月 24 日	プレゼン 市長同席
10 月 25 日	10:00 より本放映開始

今年で第10回となる金沢マラソン2024だが、その完走者に配布される記念のメダルデザインも10年連続で本学の学生が手がけることとなった。統一感のあるアートディレクションや参加者をもてなす高いレベルのホスピタリティから、今年の参加者は一段と増加しており、本メダルも大会を象徴する目玉の一つとして高い期待が寄せられている。

今年は「MOVE FORWARD AS ONE.」をテーマに、12名の学生がそれぞれユニークなデザインを提出した。選定に進んだ4案の中から、出走前のランナーの脚が並んだ様子をモチーフに、大会の高揚感や一体感を表現した川本さんの案が最終案として採用され、

2024年10月27日の大会当日には、全国各地や海外から訪れたランナーのうち14,000名あまりの完走者が完走の喜びと共にこのメダルを手にとることとなった。選定に残った3案はオンラインマラソンのバーチャルメダルとして参加者に配信された。



提出案の形状を比較検討



デザインが採用された川本さんによる市長への完成報告・記者発表



大会当日のメダル配布の様子



オンライン大会のバーチャルメダル3種

〔委託者名〕 金沢マラソン組織委員会	〔参加学生〕 稲葉 紀乃 製品デザイン専攻3年 畠野 遥 製品デザイン専攻3年 岡 璃雄 製品デザイン専攻3年 川崎 卓 製品デザイン専攻3年 川本 亜花 製品デザイン専攻3年 菊地 哉太 製品デザイン専攻3年 栗原 優佳 製品デザイン専攻3年 多田 千尋 製品デザイン専攻3年 戸塚 昂 製品デザイン専攻3年 西田 恵美里 製品デザイン専攻3年 福田 結菜 製品デザイン専攻3年 山西 優心 製品デザイン専攻3年	〔開発日程〕 2024年 4月24日 オリエンテーション 概要、デザイン条件等説明 4月30日 アイデアミーティング アイデア発表会 5月31日 アイデア選考 4案に絞る 6月10日 最終案の決定報告 7月5日 メダルモック確認 8月6日 パーチャルメダルデータ提出 10月4日 市長へのメダル完成報告・記者発表	10月27日 マラソン大会開催 14,003人の完走者に配布
------------------------------	--	--	-----------------------------------

〔担当教員〕
 矢島 幹生 講師 デザイン科
 インダストリアルデザイン専攻

昨年度に引き続いて、金沢市子育て支援課が主催する第41回児童館フェスティバル(於:金沢市民芸術村)の一環として、ドラマ工房で、学生団体「ワークショップ部ちきゅう」のメンバーが子どもたちを対象としたワークショップを開催した。このフェスティバルでは例年複数の児童館の子どもたちが日頃の活動成果を披露したり、児童館厚生員によるワークショップなどが行われている。

本学からは「おばけたちから世界をまもれ！～自分だけのヒーローライトを作ろう～」と題して、ヒーローライトを制作するワークショップを行った。子どもたちは自分の思い描くヒーローや好きなキャラクターを

ラップに描き、紙コップと合わせてライトを作った。そのライトをスクリーンに向け、スクリーンに映し出されたおばけたちと闘った。おばけたちは学生がオリジナルで制作したものである。子供たちは自分の描いた絵が浮かび上がることを楽しんでいる様子だった。1日のみの開催となったが、保護者を含めて655名という多くの来場者で賑わった。



自分で作ったヒーローライトでおばけを倒す子どもたち



会場入口



会場風景



ヒーローライトを確認している学生と、参加児童たち



〔委託者名〕 金沢市子育て支援課	〔参加学生〕 田中 菜々美 芸術学専攻2年 松田 有加 芸術学専攻2年 松岡 千冬 油画専攻2年 堀田 陽生 ホリスティックデザイン専攻2年 上野 香絵 ホリスティックデザイン専攻2年 尾松 春妃 彫刻専攻1年 三原 初子 芸術学専攻1年	〔開発日程〕 2024年 5月22日 子育て支援課からの依頼説明 7月31日 ドラマ工房ディレクター+子育て支援課との打ち合わせ 10月13日 児童館フェスティバル(当日)
----------------------------	---	---

〔研究体制〕
 プロジェクト型

〔担当教員〕
 桑村 佐和子 教授 一般教育等

昨年に引き続き、街に設置された看板にフォーカスし、歴史的な側面、伝統的な素材、技法、意匠を検証し、景観形成に貢献するためのアイデアと具体的な展開を盛り込んだ事業計画を進めた。

本年度は、大幅に参加学生を増やし総勢9名のホリスティックデザイン専攻の学生がプロジェクトに参加した。本格的なアーカイブに向けて、引き続き街の広告物に関するリサーチをおこなうとともに、新たなコンテンツの企画提案も実施した。

また、景観政策課からの依頼を受け、石川県立図書館で開催された「KANAZAWA SIGN DESIGN セミナー」に、「まちの格を高める広告物とは」と題し、

坂野をファシリテーターとして、メンバー4名がパネリストとして登壇した。

引き続き、美大生の視点で複合的に調査するとともに、発信、啓発や広告活用の促進に繋げるコンテンツを制作し、この2年間で収集した資料の一般公開に向けて、来年度以降も活動を継続する。



中間報告会の様子



金沢市屋外広告物規定のレクチャーの様子



「KANAZAWA SIGN DESIGN セミナー」パネルディスカッション

〔委託者名〕
金沢市景観政策課

〔期間〕
2024 年 4 月～ 2025 年 3 月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
坂野 徹 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
石神 結奈 ホリスティックデザイン専攻 2 年
上野 香絵 ホリスティックデザイン専攻 2 年
大竹 恵祐 ホリスティックデザイン専攻 2 年
柴谷 実侑 ホリスティックデザイン専攻 2 年
辻ノ上 真綾 ホリスティックデザイン専攻 2 年
橋原 栄見 ホリスティックデザイン専攻 2 年
橋元 風香 ホリスティックデザイン専攻 2 年
治部 晶 ホリスティックデザイン専攻 2 年
堀田 陽生 ホリスティックデザイン専攻 2 年

〔開発日程〕

2024 年		
7 月 23 日	オリエンテーション	
7 月 30 日	第 1 回ミーティング	
10 月 15 日	第 2 回ミーティング	
10 月 22 日	第 3 回ミーティング	
11 月 7 日	景観政策課への中間報告会（第 4 回ミーティング）	
11 月 27 日	第 5 回ミーティング	
2025 年		
1 月 17 日	金沢市屋外広告物規定のレクチャー（第 6 回ミーティング）	

2 月 5 日 第 7 回ミーティング
2 月 12 日 第 8 回ミーティング（リモート）
2 月 14 日 KANAZAWA SIGN DESIGN セミナー
2 月 20 日 第 9 回ミーティング（リモート）

ホスピタリティアート・プロジェクト（HAP）は、金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探索する事を目的とした研究である。プロジェクト第 34 回の企画となる、光の回廊シリーズ 14 は「おいしい能登」と題し実施された。病院待合ホールに面した大ガラスに患者、医療関係者、本学学生の協働によりステンドグラス風の装飾を施されるこのワークショップ・展示企画は、2009 年に第 1 回企画が実施されて以来、本学と市立病院の連携により継続されている。医療環境におけるコミュニケーションのあり方を提示し、そこに創出される彩りの空間は通院・入院患者、医療関係

者の日常に癒しの効果を与えている。このプロジェクトは、病院関係者のみならず、周辺地域にも受け入れられている。

本学での図案会議・下準備に始まり、病院内でのワークショップ・展示・撤収に至るまで、無事に終えることができた。



学内での制作



病院での制作



ワークショップ



会場風景

〔委託者名〕
金沢市立病院

〔期間〕
2024 年 5 月～ 2025 年 3 月
病院内制作
2024 年 8 月 25 日～ 27 日
ワークショップ
2024 年 8 月 27 日 13:00～16:00
病院内展示
2024 年 8 月 27 日～ 9 月 19 日

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
三浦 賢治 教授 美術科 油画専攻
ホスピタリティアート・コーディネーター
岩崎 純 教授 美術科 油画専攻
ホスピタリティアート・コーディネーター
〔協力〕
横川 善正 金沢美術工芸大学名誉教授（HAP 顧問）
〔参加学生〕
小村 かのこ 大学院 絵画専攻 1 年
富士原 芽依 大学院 絵画専攻 1 年
井上 英海 油画専攻 2 年
岩尾 琉花 油画専攻 2 年
浅野 菜月 油画専攻 1 年
小田 萌乃 油画専攻 1 年
田中 愛涼 油画専攻 1 年

田中 菜々美 芸術学専攻 2 年
松田 有加 芸術学専攻 2 年
高橋 友香 芸術学専攻 1 年
〔開発日程〕
2024 年
7 月 1 日 HAP 説明会
第 1 回企画会議
7 月 19 日 第 2 回企画会議（テーマ会議）
7 月 23 日 第 3 回企画会議（図案持ち寄り、選出）
7 月 25 日 消耗品発注
8 月 5 日～ 6 日 大学での制作、下準備
8 月 20 日～ 23 日 脚立等の備品を病院に搬入（展示撤収用）

8 月 24 日 作業足場設置（業者委託）
8 月 25 日 9:45～17:00
市立病院での設営、制作
ガラス保護シート張り替え、カラーセロハンによる大ガラスの装飾開始
8 月 26 日 9:30～17:00
市立病院での制作
8 月 27 日 9:30～17:00
市立病院での制作
13:00～16:00
ワークショップを経て完成、
9 月 19 日まで展示
15:00～
撤収（セロハン・ガラス保護シート剥がし、資材搬出）

ホスピタリティアート・プロジェクト（HAP）は、金沢市立病院と金沢美術工芸大学との連携により、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探索する事を目的とした研究である。プロジェクトの一環であるホスピタルギャラリーは、アートが患者さんの治療と生活の質の改善を手助けし、病院が地域社会における身近な交流の場となることを目的として、2012年度に第1回展が開催された。以後出品点数を増やしなが



会場風景



会場風景



会場設営



会場設営



にあたり、病院スタッフ、本学学生が協力して展示・受付・撤収に参加するこの試みは全国的にみても珍しく、各メディア・学術方面からも注目されている。

[委託者名] 金沢市立病院	
[期間] 2024年5月～2025年3月	
[研究体制] プロジェクト型	
[担当教員] 三浦 賢治 教授 美術科 油画専攻 ホスピタリティアート・コーディネーター	
岩崎 純 教授 美術科 油画専攻 ホスピタリティアート・コーディネーター	
[協力] 横川 善正 金沢美術工芸大学名誉教授 (HAP 顧問)	
[参加学生] 小嶋 千晶 油画専攻3年 (第13回展ポスター・募集要項表紙デザイン)	
[金沢市立病院 ホスピタリティアート・プロジェクトメンバー]	
病院事業管理者	高田 重男
院長	松下 栄紀
医局	中西 清香
医局	小林 拓
医局	川島 瑛麻
医局	久保 理香子
医局	中村 大喜
医局	庄野 真矢
看護部	中町 麻紀子
看護部	京道 美里緒
看護部	安島 幸子

看護部	矢澤 硬太	[開発日程] 2024 年 5 月 21 日 第 1 回合同企画会議 6 月 24 日 第 3 回企画会議 6 月 25 日～7 月 8 日 募集要項、ポスター、 チラシ、DM 作成 7 月 9 日～ 展覧会ポスター配布、 HP 案内 7 月 11 日～8 月 23 日 作品募集 8 月 8 日～ 展覧会チラシ配布 8 月 26 日～30 日 作品搬入 9 月 10 日 開催案内（報道関係、FB、LINE） 9 月 20 日 ギャラリー設営（17 時～） 9 月 21 日～23 日 ホスピタルギャラリー開催 9 月 23 日 ギャラリー撤収、
看護部	才田 節子	
看護部	牧野 聡子	
看護部	中障子 佳代子	
放射線室	安土 佳宏	
検査室	海道 一恵	
検査室	角野 忠昭	
薬剤室	新谷 圭子	
事務局	中宮 英範	
事務局	後藤 敬仁	
事務局	中川 大和	
[市民アドバイザー]		
野川 勝紀		
富地 晃裕		
駒井 順子		

大学連携地域力創造プロジェクトは金沢市の取り組みで、学生が街中の施設や市民と関わりながら、地域や行政の課題解決、さらには地域の活性化に取り組む実践型の授業プロジェクトである。学生たちは街に出てリサーチを行い、市民へのインタビューなどを通じて、それぞれの視点から金沢市の多様な課題を抽出した。そして、デザインの視点からアプローチしながら、街の活性化や課題解決に貢献するサービス、ハードウェア、アプリケーションなどを提案した。一方、インダストリアルデザイン専攻では、三菱電機株式会社と「中核都市における社会課題とその解決策」について共同研究を実施しており、その研究内容が本プロ



YOU NOH? 楽しく能を知るためのきっかけづくり



ソリューションアイデア発表



金沢市プレゼンテーション

ジェクトと近い領域を対象としていたことから、今年度は金沢市を中心とした産官学連携プロジェクトとして進行する新たな試みとなった。2月20日には、金沢市役所第二本庁舎にて成果発表会を実施した。また、金沢市役所第二本庁舎1階エントランスでは成果展示を行い、市役所を訪れた市民の皆さまにもその成果を直接ご覧いただいた。



金沢市役所第二本庁舎での成果物展示



金沢市役所第二本庁舎での成果物展示

[委託者名] 金沢市地域力再生課	
[期間] 2024年6月～2025年2月	
[研究体制] 授業導入型	
[担当教員] 入矢 真一 教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	
[参加学生] 西山 誌織 大学院 デザイン専攻2年 石垣 為智 製品デザイン専攻3年 泉 泰平 製品デザイン専攻3年 稲葉 紀乃 製品デザイン専攻3年 畝野 遥 製品デザイン専攻3年 岡 璃雄 製品デザイン専攻3年 北山 愛理 製品デザイン専攻3年 加藤 更咲 製品デザイン専攻3年 川崎 卓 製品デザイン専攻3年 川本 亜花 製品デザイン専攻3年 菊地 哉太 製品デザイン専攻3年 木村 環希 製品デザイン専攻3年 栗原 優佳 製品デザイン専攻3年	

小島 静月 製品デザイン専攻3年	10月16日	WS2 気づきの抽出、
多田 千尋 製品デザイン専攻3年		ベルソナ設定
戸塚 昂 製品デザイン専攻3年	10月24日	WS3 HMQW と
西田 恵美里 製品デザイン専攻3年		アイデア展開
福田 結菜 製品デザイン専攻3年	11月14日	WS4 インタビューと
山西 優心 製品デザイン専攻3年		プロトタイピング
[開発日程] 2024年 6月～8月 事前準備と産官学連携の調整		11月28日 最終プレゼンテーション
		12月16日～24日 学内成果物展示
		2025年
9月24日 産官学キックオフ	2月20日	金沢市 プレゼンテーション
9月～10月 事前リサーチ	2月20日～28日	
10月1日 WS1 事前課題共有		金沢市役所第二本庁舎展示

金沢市の依頼を受け、バス待ち環境の向上を目的とした整列乗車用の行き先案内サインのデザインを行った。本事業では、観光客で混雑する橋場町バス停において、スムーズな乗車と快適な待ち時間の確保を目指した。

橋場町バス停は行き先や路線が複雑であるため、利用者が瞬時に目的地を把握できるよう、「金沢周遊」と「金沢駅ゆき」の二つの行き先案内を設け、視認性を高めた。さらに、案内サインを設置する既存の柱の周囲を待合エリアとして明示し、利用者が自然に整列しやすい環境を整えた。このデザインによって、待ち時間の混乱を軽減し、バス停の利用効率を高めること

を意図している。

橋場町バス停は、卯辰山麓伝統的建造物群保存地区に位置しており、歴史的な街並みの中にある。そのため、行き先案内サインのデザインにおいても、地域の景観と調和することを意識し、建造物や街の雰囲気にも馴染む意匠を採用した。観光客と地域住民双方にとって利便性が高く、快適なバス待ち環境の創出に貢献している。



photo by Hiro Yamashina



二つの行き先案内



既存柱を活かした行き先毎の待合エリア



街並みに調和するサインの色彩計画



現地での案内サイン試作確認の様子

〔委託者名〕 金沢市交通政策課	
〔期間〕 2024 年 6 月～ 2025 年 2 月	
〔研究体制〕 プロフェッショナル型	
〔担当教員〕 角谷 修 教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	
西本 耕喜 准教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	

〔協力〕 KuKi 北川 里沙	
〔開発日程〕 2024 年 7 月 3 日 初回ミーティング 8 月 7 日 第 1 回デザイン提案 9 月 11 日 第 2 回デザイン提案 10 月 11 日 第 3 回デザイン提案 12 月 13 日 現地試作確認 12 月 19 日 第 4 回デザイン提案	
2025 年 1 月 28 日 現地設置確認	

1 日あたりの野菜摂取量は、成人の男女ともに 350g 以上を目標としているが、現状ではその目標に達していない。金沢市民の野菜摂取量増加を図るため、オリジナルロゴおよび POP をデザインした。4 名の学生は、自分ごととしてなぜ野菜を摂取することを面倒に感じるのか考え、では逆転の発想で、面倒に感じなくなるためには何を伝えればよいのか、という問いを出発点に発想を広げた。最終的に選定されたのは、必要とは思っているが適量のイメージがわからない生活者に対して、1 食分は生野菜で両手 1 杯とされる「手ばかり栄養法」に着想を得た「てのひらぶんがー食分」というコピーとともに、親しみやすい三体のゆ

るいキャラクターが広報活動を行うという案である。金沢市内のコンビニエンスストアや市場などの野菜売場 50 店舗以上に掲出されたほか、今後は小学校や地域のイベント等において、野菜の摂取量に加えて、簡単な調理方法や摂取のメリットについても、これらのキャラクターを主体として宣伝を展開していく予定である。



最終決定ロゴ



最終 4 案のロゴ



金沢市保健所プレゼン



お披露目会



50 店舗以上に設置

〔委託者名〕 金沢市保健所	
〔期間〕 2024 年 5 月～ 11 月	
〔研究体制〕 プロジェクト型	
〔担当教員〕 高田 大資 講師 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	

〔参加学生〕 坂口 華杏 視覚デザイン専攻 3 年 山下 尋 視覚デザイン専攻 3 年 吉田 明凜 視覚デザイン専攻 3 年 外山 晴菜 視覚デザイン専攻 3 年	
---	--

〔開発日程〕 2024 年 4 月末 オリエンテーション 5 月～ 6 月 チームミーティング 6 月中旬 地域保健課中間提案 7 月 10 日 地域保健課最終提案 7 月 16 日 金沢市保健所プレゼン 7 月 25 日 食育推進会議プレゼン 最終案決定、取材対応 8 月 30 日 お披露目会 50 店舗以上に設置	
---	--

金沢市との地域連携事業として、「イベントごみ減量マニュアル」の普及および、環境に配慮したイベントを推進する認定制度のデザイン制作を担当した。本事業では、同マニュアルを活用して環境配慮に取り組むイベントを認定し、その象徴として認定マークおよびのぼり旗を作成した。

「ごみを減らして未来へつなげる」というメッセージを込めて、人と人、そして現在と未来を結ぶ象徴として水引きをモチーフにしたデザイン案が採用された。この認定マークは、市民やイベント主催者が環境への配慮を示すシンボルとして、今後広く活用される予定である。



プレゼン風景



ごみを減らして未来へつなげる

〔委託者名〕
金沢市ごみ減量推進課

〔期間〕
2024 年 4 月～ 8 月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
畠野 裕司 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

高田 大資 講師 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
児玉 菜緒 大学院 デザイン専攻 1 年
安部 涼香 ホリスティックデザイン専攻 2 年
上野 香絵 ホリスティックデザイン専攻 2 年
河原 英美 ホリスティックデザイン専攻 2 年
辻ノ上 真綾 ホリスティックデザイン専攻 2 年
堀田 陽生 ホリスティックデザイン専攻 2 年

〔開発日程〕
2024 年
6 月 3 日 キックオフ MTG
6 月 10 日 ラビットデザイン確認
6 月 18 日 ラビットデザイン確認
6 月 20 日 中間デザイン
7 月 8 日 プレゼンテーション
7 月 24 日 最終デザイン
最終案決定

金沢市が推進する「木の文化都市推進計画」は、川上から川下まで多岐にわたる取り組みを展開している。こうした多様な取り組みの認知度向上と気運醸成を目的に、ロゴマークのデザイン制作が依頼された。金沢市内のアートディレクター 3 名がデザインを提案し、橋本氏のデザイン案が採用された。デザインコンセプトは「鼓門」。鼓門を支える脚をモチーフとしたロゴマークには、木の文化都市として未来へ躍動し、成長していく姿が表現されている。



市長報告

市長報告

取材対応

使用マニュアル

〔委託者名〕
金沢市都市計画課

〔期間〕
2024 年 5 月～ 12 月

〔研究体制〕
プロフェッショナル型

〔担当教員〕
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔協力〕
デザケン 橋本 謙次郎

〔開発日程〕
2024 年
4 月 15 日 市役所にて打ち合わせ
5 月 9 日 デザイナー 3 名へ
13 日のオリエンテーション連絡
5 月 13 日 12:00 Zoom にてオリエンテーション
(市役所+デザイナー 3 名)
7 月 6 日 13:00 美大より市役所提出
7 月 25 日 評価項目まとめ
10 月 2 日 最終決定
11 月 2 日 市長報告・記者発表

金沢市立病院からの依頼を受け、同病院の再整備に向けたインクルーシブデザインの導入や、誰もが安心して利用できる「夢のある病院空間」のデザインを行った。

本プロジェクトでは、医師、看護師、リハビリスタッフ、事務職員など、さまざまな立場の職員とのディスカッションを重ねるとともに、地域住民とのワークショップや急性期医療の現場見学を実施。これにより、市立病院の役割や課題への理解を深め、学生それぞれが独自の視点でテーマを設定し、デザインを提案することを重視した。

こうしたプロセスを経て、以下の7つのデザインアイデアを提案。これらが今後の市立病院の設計に活かされることを期待する。

1. 地域に開かれたランドスケープデザイン
2. 地域住民に向けた新しいオープンな空間
3. 心地よいコミュニケーション空間
4. 病室の空間デザイン
5. 徘徊が楽しくなる廊下
6. 次世代型の移動式ルーム
7. 居心地の良い職員コミュニケーションスペース



デザインアイデア



市立病院職員との意見交換の様子



地域住民とのワークショップの様子



中間発表の様子



最終発表の様子

ふらっとバスは市内各地を巡回するコミュニティバスであり、長年金沢市民の日常の足として親しまれてきたが近年では利用者の減少傾向に悩まされている。市ではふらっとバスの利便性を向上し、認知度を向上する取り組みの一環としてEV車両の導入を決定し、それに合わせた運行車両のラッピングデザイン一新を本学で受託することとなった。コンセプトを「近未来と金沢らしさの両立」とし、油画、芸術学、インダストリアルデザイン専攻の学生から案を募った。15案の応募案から4案が市民投票に進み、投票総数3,563票のうち1,501票を獲得した関口さんの案が採用となった。

車両施工は年度内に完了し、2025年3月27日快晴のもとお披露目会が行われ、関係者およびメディア公開となった。水引の飾り結びが目目を惹くデザインは此花ルートの車両を皮切りに、今後車両更新に合わせ全てのルート进行するバスが新デザインに置き換わる予定である。



市民投票のためのイメージスケッチ



実車での位置検討



大きくあしらわれた「あわじ結び」



お披露目会でのプレゼンテーション

[委託者名]	
金沢市立病院	
[期間]	
2024年5月～2025年3月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
安島 諭	教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻
西本 耕喜	准教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻

[参加学生]	
篝 佑伽	大学院 デザイン専攻2年
坂東 凛汰朗	大学院 デザイン専攻1年
稲垣 晶子	製品デザイン専攻4年
中南 温恵	製品デザイン専攻4年
新家 歩果	環境デザイン専攻3年
堀田 輝士	環境デザイン専攻3年
武原 明歩	環境デザイン専攻3年
大門 千隼	環境デザイン専攻3年
肥後 環希	環境デザイン専攻3年
日比野 咲	環境デザイン専攻3年
藤井 七星	環境デザイン専攻3年
和田 歩乃葉	環境デザイン専攻3年

[開発日程]	
2024年	
5月22日	初回ミーティング
6月27日	意見交換、院内見学
7月18日	意見交換、調査報告
9月24日	ワークショップ
10月7～18日	急性期医療見学
10月31日	中間発表
12月2日	最終発表

[委託者名]	
金沢市交通政策課	
[期間]	
2024年5月～2025年3月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
矢島 幹生	講師 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻
岩崎 純	教授 美術科 油画専攻

[参加学生]	
上野 有輝	製品デザイン専攻4年
亀田 あかり	製品デザイン専攻4年
川端 鈴奈	製品デザイン専攻4年
芝山 昂太郎	製品デザイン専攻4年
関口 優月	製品デザイン専攻4年
相馬 爽人	製品デザイン専攻4年
坪内 大貴	製品デザイン専攻4年
西野 花咲	製品デザイン専攻4年
山田 真由	製品デザイン専攻4年
小嶋 千晶	油画専攻3年
坂野 愛菜	油画専攻3年
中村 彩乃	油画専攻2年
田中 菜々美	芸術学専攻2年

松田 有加		芸術学専攻2年
木下 桜歌		芸術学専攻1年
[開発日程]		
2024年		
5月31日	概要説明会	
7月30日	一次選考作品エントリー	
9月25日	市民投票開始	
11月18日	採用案決定	
2025年		
2月下旬	制作車両確認	
3月27日	メディア発表	

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震を受けて、加賀藩前田家と縁のある穂田神社から復興支援と伝統工芸の継承を目的とした授与品（お守り）のデザイン制作の依頼を受けた。14 案のアイデアから 1 次選考で染織 2 名、陶磁 2 名の案に絞られ、染織と陶磁のペアリングを行った。4 名で穂田神社を訪れ、調査を基に案を練り上げた。最終選考の結果、長縄花怜さんと佐藤りりかさんの案が採用された。コンセプトは「人や自然がともに調和し循環していく未来を目指していけるように」で、九谷焼の陶磁器パーツに真田紐を通したこれまでの授与品にはないデザインとなった。陶磁器部分は前田家の梅鉢紋と境内の紅白梅、神

社のロゴマークの鳥をモチーフとし、真田紐は穂田神社周辺の自然や植物をイメージした緑を基調とした配色とした。またお守りをバッグや手首などに結ぶという動作を通して願いを込めるという意味合いを強めているものであり、良縁守「くくる」と名付けた。2025 年 1 月 1 日から頒布を開始し、売り上げの一部は能登半島地震の復興義援金として寄付される。



〔委託者名〕
穂田神社

〔期間〕
2024 年 6 月～12 月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
大高 亨 教授 工芸科
山本 健史 教授 工芸科
宮永 春香 准教授 工芸科

〔参加学生〕
劉 方路 大学院 博士後期課程 3 年
荒木 いちご 大学院 工芸専攻 2 年
矢賀 紀蓉佳 大学院 工芸専攻 2 年
小池 さくら 工芸科 4 年
佐藤 りりか 工芸科 4 年
西川 塔子 工芸科 4 年
菅沼 稜子 工芸科 4 年
飯嶋 さくら 工芸科 3 年
並木 舞花 工芸科 3 年
本多 遥菜 工芸科 3 年
鈴木 秀和 工芸科 2 年
長縄 花怜 工芸科 2 年
堀内 朱々 工芸科 2 年
松尾 美沙子 工芸科 2 年

〔開発日程〕
2024 年
6 月 10 日 プロジェクト説明会
7 月 8 日 1 次案締め切り
7 月 25 日 1 次通過者発表
8 月 3 日 穂田神社への調査
8 月 19 日 2 次案プレゼンテーション
8 月 20 日 最終案決定
9 月 原型制作（陶磁）、
織データ作成（染織）
10 月～11 月 業者による制作
12 月 パッケージ作業、納品

協同組合金沢問屋センターと金沢美術工芸大学は、歴史ある「問屋町」を魅力あふれる活気ある街へと発展させるため、ビジネスの街という要素に加え「文化」の創出を目指して協定を結び、これまでに多岐にわたる活動を展開してきた。

本年度は、組合員の家族や問屋町近隣の保育園・幼稚園・小学校に通う児童を対象に、絵画・工作教室を開催した。子どもたちに少しでもものづくりの楽しさを伝えたいという思いから企画された催しである。また、「学びなおし」の必要性が高まる現代において、セカンドライフや生きがいの視点から、より彩り豊かな生活を実現することを目的に、水彩画ワークショッ

プ（入門編）を開催した。講師には金沢美術工芸大学の非常勤講師である山本順子先生を迎え、誰でも気軽に楽しめる内容となった。



ふくわらい



オリジナルパズル



日めくりカレンダー



水彩画ワークショップ

〔委託者名〕
協同組合金沢問屋センター

〔期間〕
2024 年 6 月～10 月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
岩崎 純 教授 美術科 油画専攻
大森 啓 教授 美術科 油画専攻
山本 順子 非常勤講師

〔参加学生〕
田中 葉々美 芸術学専攻 2 年
松田 有加 芸術学専攻 2 年
廣島 未来 油画専攻 2 年
小元 凜音 油画専攻 1 年
北川 夏風 油画専攻 1 年
仲 美琴 油画専攻 1 年
架谷 七海 油画専攻 1 年
八木 美穂 油画専攻 1 年

〔開発日程〕
2024 年
5 月 15 日 概要説明会
5 月下旬 企画アイデア出し
6 月 11 日 企画案プレゼンテーション
6 月中旬 チラシ制作
7 月 8 日 チラシ提出
7 月～8 月 ワークショップ準備
8 月 17 日 子ども向けワークショップ
8 月 18 日 社会人向けワークショップ

8月22日から25日まで開催された「第37回 JAPAN TENT ―世界留学生交流・いしかわ2024」において、参加者が着用するTシャツの基本デザインを、前回に引き続き制作した。今回のデザインは、大学院デザイン専攻視覚デザインコース1年の大谷さんの案が採用された。デザインは、石川県の伝統工芸である金沢和傘を地球に見立て、和の印象を残しつつも直感的にグローバルな雰囲気意識したものとなっている。シャツを受け取った海外からの参加者やホストファミリーにも好評を博した。次年度もTシャツデザインに取り組むことが決定している。



Tシャツデザイン



来県した留学生



能登へ応援寄せ書き



3種類のデザイン

〔委託者名〕
JAPAN TENT 開催委員会

〔期間〕
2024年6月～9月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
大谷 周 大学院 デザイン専攻1年
梶崎 有花 大学院 デザイン専攻1年
坂口 歩 視覚デザイン専攻4年

〔開発日程〕
2024年
6月8日 オリエンテーション
(大谷、梶崎)
6月10日 今年のロゴ入手、
Tシャツの色確認
7月1日 中間確認
7月12日 デザイン案 提出
8月8日 デザイン案 決定

石川県立図書館がオリジナルトートバッグを企画するにあたり、デザイン案の制作を金沢美術工芸大学に依頼があった。学内全専攻を対象にデザイン案を募集し、18名から21案の応募があった。図書館側で7案に絞り込み、9月18日～29日に館内で実施した一般投票の結果、2,490票中735票の最多得票数を集めたホリスティックデザイン専攻2年・鹿島さんのデザインが採用された。デザインコンセプトは、「図書館は行き止まりのない空間」。1階から4階までの回遊性を、一筆書きのようなデザインで表現している。

県立図書館では、11月から館内でオリジナルトートバッグを販売し、図書館のPRや読書推進につなげたいと考えている。



オリエンテーション



図書館での投票



図書館での投票会場



採用された学生

〔委託者名〕
石川県立図書館

〔期間〕
2024年6月～10月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
寺井 剛敏 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
大谷 周 大学院 デザイン専攻1年
丸田 哲平 視覚デザイン専攻4年
江川 衣吹 視覚デザイン専攻3年
北 恭輔 視覚デザイン専攻3年
三澤 空花 視覚デザイン専攻3年
石神 結奈 ホリスティックデザイン専攻2年
出雲 涼菜 ホリスティックデザイン専攻2年
大竹 恵祐 ホリスティックデザイン専攻2年
垣内 有人 ホリスティックデザイン専攻2年
鹿島 佑和 ホリスティックデザイン専攻2年
菅野 なな江 ホリスティックデザイン専攻2年
柴谷 実侑 ホリスティックデザイン専攻2年
辻ノ上 真綾 ホリスティックデザイン専攻2年

鳥井 菜七子 ホリスティックデザイン専攻2年
橋元 風香 ホリスティックデザイン専攻2年
伊藤 涼花 ホリスティックデザイン専攻1年
本多 遥菜 工芸科3年
〔開発日程〕
2024年
6月5日 美大にて打ち合わせ
6月18日 学生へのオリエンテーション内容確認
8月8日 提案締切
8月14日 18名から21案応募あり、図書館へデータ送付

8月24日 追加1案
合計7案で試作へ
9月2日 最終データ 図書館へ
9月18日～29日 図書館にて来場者投票
9月30日 鹿島の案に決定
11月より 石川県立図書館にて販売スタート

金沢刑務所矯正展は、法務省が主催する「社会を明るくする運動」の一環として開催される催事であり、受刑者が製作した製品の展示・販売などが行われている。2024 年度から、同展の広報活動や関連事業に金沢美術工芸大学の学生が参画することとなった。矯正展の広報用ポスターのデザインには、油画専攻の学生 5 名が参加し、各自が構想したデザイン案を提出した。その後、金沢刑務所関係者による審査を経て、最終的に 1 点が公式ポスターとして採用された。同様に、リーフレットの制作については、芸術学専攻の学生がアイデアスケッチを提案し、コンペ形式で審査された結果、最適なデザインが選ばれた。

さらに、矯正展当日には工芸科の学生 13 名がアートマーケットを出店し、各自の作品を展示・販売する実践的試みがなされた。この取り組みを通じて、学生たちは社会の中でアートが果たす役割を学び、美術の影響力について考える貴重な機会を得た。今後の表現活動に新たな視点をもたらす契機となったといえる。



アートマーケット出店



ポスター選考



ポスター選考



矯正展の様子



美大（工芸）ブース

[委託者名]	
金沢刑務所	
[期間]	
2024 年 6 月～12 月	
[研究体制]	
プロジェクト型	
[担当教員]	
岩崎 純	教授 美術科 油画専攻
池田 晶一	教授 工芸科
宮永 春香	准教授 工芸科

[参加学生]	
本田 花絵	油画専攻 4 年
井上 英海	油画専攻 2 年
浦野 華	油画専攻 2 年
澤田 佳奈	油画専攻 2 年
酒井 恵華	油画専攻 1 年
松田 有加	芸術学専攻 2 年
市川 花	工芸科 4 年
伊藤 楓夏	工芸科 4 年
大村 怜子	工芸科 4 年
小池 さくら	工芸科 4 年
菅沼 稜子	工芸科 4 年
高橋 稜	工芸科 4 年
津田 珠緒	工芸科 4 年

西川 塔子	工芸科 4 年
内藤 楓乃	工芸科 3 年
松澤 慶	工芸科 3 年
宮城 葵色	工芸科 3 年
森 春歌	工芸科 3 年
長縄 花怜	工芸科 2 年

[開発日程]	
2024 年	
6 月 17 日	金沢刑務所 会場下見
7 月 1 日	ポスター制作開始
7 月 30 日	プレゼン・審査
8 月 1 日	リーフレット制作開始
8 月 19 日	リーフレット完成
9 月 21 日	第 38 回 矯正展

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37			
38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54			
55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71			
72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88			
89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104				
105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117							
118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130							
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143							
144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156							
157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169							
170																			

産 学 連 携 事 業

171	パーティション「DECO FRAME」の新たな使い方の提案	28
172	冬季イルミネーションの空間演出計画	29
173	「プライドポテト JAPAN 日本の神業 金沢の甘えび」の パッケージデザイン制作	30
174	MOVE（移動・感動）	31
175	MOVE（移動・感動）	32
176	「めがね」をイメージする建造物のデザイン研究	33
177	海洋プラスチック問題にみんなで向き合うきっかけをつくるデザイン	34
178	「金沢をイメージした水菓子容器の開発」デザイン研究	35
179	東北レインボーハウスワークショップのデザイン作成	36
180	中核都市における社会課題とその解決策について	37
181	赤ちゃんを惹きつけるビジュアル・カラー・形とは何か？	38
182	令和6年能登半島地震 商品P K Gデザイン支援	39
183	金属製椅子デザイン開発協力	40

地元企業の小松ウオール工業が製造販売する、開放感を保ちながら空間を緩やかに仕切るパーティション「DECO FRAME」の新たな使い方と用途を提案するプロジェクトである。

プロジェクトは、オリエンテーションを通じて製品の特性と課題を理解することから始まった。参加者は、先入観を持たずに自由な発想でアイデア展開を行い、次に仮説を設定した上で同社の工場とショールームを見学した。そこで得た知見を基に、具体的な使用シーンを想定した3Dパースと1/10モデルを複数案制作し、中間検討会では企業の若手社員と活発な意見交換を行った。

最終モデルでは、各自が提案する空間における使用イメージを3Dパースで表現し、部分原寸と1/5サイズのモデルを用意することで、製品の魅力を最大限に引き出した。最終的に選抜された2作品は、企業側で原寸のプロトタイプが設計試作され、関係者にお披露目された。

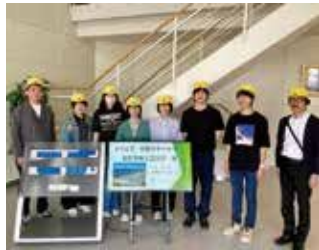
このプロジェクトを通じて、参加者は実際の製品開発プロセスを体験し、自身がデザインした新たな体験ストーリーを実際のモデルで確認するという、産学連携ならではの貴重な経験を得た。



原寸試作モデル内覧会



5月 オリエンテーション



6月 工場・ショールーム見学会



7月 中間検討会



9月 最終モデル発表会

〔委託者名〕
小松ウオール工業株式会社

〔期間〕
2024年4月～2025年3月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
北村 賢哉 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
明石 怜旺 大学院 デザイン専攻2年
川畑 紗希 大学院 デザイン専攻2年
児玉 菜緒 大学院 デザイン専攻1年
鈴木 美玖 環境デザイン専攻3年
肥後 環希 環境デザイン専攻3年
垣内 宥人 ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕
2024年
5月8日 オリエンテーション
6月7日 工場見学会・製品勉強会
7月18日 中間検討会
9月18日 最終モデル発表会
2025年
2月7日 原寸試作モデル内覧会

金沢村田製作所（白山市）において、従業員や来訪者が楽しめるよう、敷地内に夜間だけでなく昼間も鑑賞可能なイルミネーション作品を、約1年かけて制作した。

本年度で4年目を迎える本プロジェクトでは、「Metamorphose（変化・変身）」をテーマに、能登の復興への思いを込め、身近な建築資材を活用した。

塩化ビニールパイプなどの建築資材を用いて、三つの光のオブジェを制作した。「ループ」は白く発光するトンネル状の作品、「コネクトドーム」は青・黄・白色に輝く球体、「再生の蔦」は紫色の光を放つ半円形のオブジェであり、それぞれ異なる変容の姿を表現している。



最終デザインプレゼンテーション



最終デザインプレゼンテーション



最終活動報告会



点灯式



コネクトドーム



再生の蔦



ループ

〔委託者名〕
株式会社金沢村田製作所

〔期間〕
2024年4月～2025年3月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
畝野 裕司 教授 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
藤井 七星 環境デザイン専攻3年
武原 明歩 環境デザイン専攻3年
橋村 美紅 ホリスティックデザイン専攻2年
堀田 陽生 ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕
2024年
4月18日 キックオフ打ち合わせ
5月20日 アイデア方向性確認打ち合わせ
6月11日 中間デザインプレゼンテーション
7月18日 最終デザインプレゼンテーション
11月3日 施工状況現地最終確認
11月6日 活動報告会・点灯式

湖池屋の「プライドポテト 日本の神業」シリーズより、「金沢の甘えび」味が発売されるにあたり、昨年に引き続き、金沢美術工芸大学の学生にパッケージデザインの提案依頼があった。今回のリニューアルでは、金沢を代表する甘えびの風味をより感じられる味へと進化されており、金沢を盛り上げる共同プロジェクトとして実施された。デザイン案は最終6案に絞られ、金沢市内の小学生や市民、全国からの総選挙を実施し、約 24,000 通の投票結果をもとに最終的に 2 案

が採用され、全国発売が決定した。また、売上の一部は、金沢美術工芸大学、金沢市および能登震災復興のために寄付された。プロジェクトは好評を博し、次年度も継続が決定している。



金沢市長、佐藤社長と記者発表



デザインが採用された学生



湖池屋本社での研修



オリエンテーション

[委託者名] 株式会社湖池屋		[参加学生] 大谷 周 大学院 デザイン専攻 3 年 漆畑 天音 視覚デザイン専攻 3 年 北 恭輔 視覚デザイン専攻 3 年 三隅 玲那 視覚デザイン専攻 3 年 池田 和都 ホリスティックデザイン専攻 2 年 石神 結奈 ホリスティックデザイン専攻 2 年 石木 双葉 ホリスティックデザイン専攻 2 年 出雲 涼菜 ホリスティックデザイン専攻 2 年 岡田 優花 ホリスティックデザイン専攻 2 年 鹿島 佑和 ホリスティックデザイン専攻 2 年 加藤 靖葉 ホリスティックデザイン専攻 2 年 河原 英美 ホリスティックデザイン専攻 2 年 柴谷 実侑 ホリスティックデザイン専攻 2 年		鈴木 望夏 ホリスティックデザイン専攻 2 年 辻ノ上 真綾 ホリスティックデザイン専攻 2 年 鳥井 菜七子 ホリスティックデザイン専攻 2 年 中尾 涼夏 ホリスティックデザイン専攻 2 年 間地 春水 ホリスティックデザイン専攻 2 年 西木 場友希 インダストリアルデザイン専攻 2 年 [開発日程] 2024 年 4 月 12 日 美大にてオリエンテーション 4 月 22 日 学内へ周知 5 月 13 日 デザイン案提出 5 月 16 日 学生より 20 案 (19 名)		湖池屋へ送付 1 次通過 8 名、修正案提出 2 次選考で 6 案に絞り込み、総選挙へ 総選挙告知 (新聞掲載) 総選挙終了 約 24,000 票 最終 2 案決定 データ修正納品 金沢市役所にて新商品発表会 (村山市長、佐藤社長出席) 全国コンビニ、スーパーマーケット、ドラッグストアなど一般店発売	
-------------------	--	---	--	--	--	--	--

スカパー JSAT と 2 回目の産学連携授業を実施。授業テーマは「Visionary Thinking」。誰かが創る未来ではなく、学生一人ひとりが自分の興味・関心事の理想の未来を考え、実践することで社会との繋がりを感じ取れることを目的としている。産学連携授業のミッションは物質・非物質の移動のデザインによる「地球との共存」と「ウェルビーイング」の実現とし、魅力的な移動体験を目指すためテーマは移動と感動を意味する「MOVE」とした。

参加学生 9 名に対して、教員 2 名メンター 1 名で行われた。発表は、5 年ぶりに六本木にある AXIS ギャラリーで行った。



六本木の AXIS ギャラリーにて公開プレゼンテーションの様子



会場受付風景



公開プレゼンテーション背景



5 年間の全提案展示



会場での記念撮影

[委託者名] スカパー JSAT 株式会社		[参加学生] 岡 璃雄 製品デザイン専攻 3 年 菊地 哉太 製品デザイン専攻 3 年 栗原 優佳 製品デザイン専攻 3 年 山西 優心 製品デザイン専攻 3 年 西田 恵美里 製品デザイン専攻 3 年 川本 亜花 製品デザイン専攻 3 年 多田 千尋 製品デザイン専攻 3 年 福田 結菜 製品デザイン専攻 3 年 畠野 遥 製品デザイン専攻 3 年		[開発日程] 2024 年 3 月 1 日 ガイダンス 事前課題 4 月 4 日 事前課題発表 4 月 10 日 スカパー会社紹介 4 月 12 日 事前課題に対するコメント 4 月 17 日 白山ろく民族資料館視察 4 月 17 日 コンセプトシート 3 案に絞って確認 4 月 15 日 越野亮講義 AI 基礎 4 月 22 日 長田典子講義 & ワークショップ 感性工学 4 月 24 日 コンセプト確定		5 月 1 日 プロダクトアイデア中間チェック 5 月 2 日 越野亮テクノロジーサポート 5 月 8 日 プロダクトデザイン決定 5 月 15 日～16 日 CMF 講習会 5 月 22 日 デザイン最終確認 6 月 11 日 最終プレゼン 9 月 27 日～29 日 AXIS ギャラリー展示 11 月 2 日～4 日 美大祭期間中に新校舎で展示	
--------------------------	--	---	--	--	--	--	--

インダストリアルデザイン専攻3年生では「Visionary Thinking」と題し、未来の社会のあるべき姿を構想し、そこから逆算で必要になるデザインを考える授業を展開している。今回は9名の学生がスズキ株式会社と共同で移動の未来を想像し、提案することとなった。スズキ株式会社からは3名のデザイナーをメンターとして迎え、プロの視点からのアドバイスを直接受ける体制となっており、学生にとっては大きな学びのある2ヶ月間である。情報が行き交う現代と近未来において、身体を移動させる価値とは何かを深く考え形にしていく行為を通じ、当初は単なる空想のようだったアイデアに深いリアリティと説得力を与えていくプロセ



AXISギャラリーでのプレゼンテーション



制作モデル



原田則彦氏によるデモンストレーション



AXISギャラリーでの展示



参加学生とスズキメンター

[委託者名] スズキ株式会社	[参加学生] メンター 小笹 哲哉 スズキ株式会社 リーダー 小島 静月 製品デザイン専攻3年 石垣 為智 製品デザイン専攻3年 川崎 卓 製品デザイン専攻3年	[開発日程] 2024年 3月～ 4月4日 4月10日 4月11日 4月12日 4月15日 4月19日 4月22日 4月25日 5月7日	ガイダンス 事前課題 スズキ本社訪問 授業スタート コンセプトチェック会 白山ろく民族資料館視察 越野亮講義 AI基礎 中間オンラインチェック・アイデア確定 長田典子講義&ワークショップ 感性工学 原田則彦講義 オンラインチェック・デザイン方向性決定	5月15日～16日 CMF講習会 5月23日 デザイン最終確認 6月10日 最終プレゼン 9月27日～29日 11月2日～4日
[研究体制] 授業導入型	メンター 結城 康和 スズキ株式会社 リーダー 木村 環希 製品デザイン専攻3年 泉 泰平 製品デザイン専攻3年 戸塚 昂 製品デザイン専攻3年	[担当教員] 矢島 幹生 講師 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	5月15日～16日 CMF講習会 5月23日 デザイン最終確認 6月10日 最終プレゼン 9月27日～29日 11月2日～4日	美大祭期間中に新校舎で展示
[委託者名] スズキ株式会社	[参加学生] メンター 片山 恵介 スズキ株式会社 リーダー 稲葉 紀乃 製品デザイン専攻3年 北山 愛理 製品デザイン専攻3年 加藤 更咲 製品デザイン専攻3年	[開発日程] 2024年 3月～ 4月4日 4月10日 4月11日 4月12日 4月15日 4月19日 4月22日 4月25日 5月7日	ガイダンス 事前課題 スズキ本社訪問 授業スタート コンセプトチェック会 白山ろく民族資料館視察 越野亮講義 AI基礎 中間オンラインチェック・アイデア確定 長田典子講義&ワークショップ 感性工学 原田則彦講義 オンラインチェック・デザイン方向性決定	5月15日～16日 CMF講習会 5月23日 デザイン最終確認 6月10日 最終プレゼン 9月27日～29日 11月2日～4日
[研究体制] 授業導入型	メンター 結城 康和 スズキ株式会社 リーダー 木村 環希 製品デザイン専攻3年 泉 泰平 製品デザイン専攻3年 戸塚 昂 製品デザイン専攻3年	[担当教員] 矢島 幹生 講師 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	5月15日～16日 CMF講習会 5月23日 デザイン最終確認 6月10日 最終プレゼン 9月27日～29日 11月2日～4日	美大祭期間中に新校舎で展示

スを実践することができた。9名の学生それぞれがユニークで魅力的な未来の移動手段を提案し、スケールモデルを含む最終成果物は六本木 AXIS ギャラリーでプレゼンテーション・展示を行った。

発足から23年目となるメガネ部の活動だが、2024年度はメンバーが47名と過去最大の人数での活動となった。昨年度に引き続き、福井県眼鏡協会との産学連携体制のもと、「めがねのまち鯖江」をアピールする目的で眼鏡関連企業に制作してもらうモニュメントをデザインする活動を行った。参加学生は4つのグループに分かれ、学年をまたいで意見交換をしながら各自の提案をまとめていった。47案の提案が最終プレゼンテーションに進み、優秀案はめがねフェス会場



めがねフェス 2024 ステージでの表彰

での表彰を受けた。その後各企業からの制作の申し出があった案についても、随時制作フォローを行い年度末までのモニュメント完成を目指す。提案したアイデアは眼鏡協会協力のもと、iOFT 国際メガネ展での出展公開が行われた。
また2024年度の新しい取り組みとしては福井工大メガネ研究会の参加があった。他校との交流を通じた活動のさらなる活性化を期待したい。



最優秀賞：西田 恵美里



意見交換会



採用案制作のための技術フォロー



iOFT 国際メガネ展での展示

[委託者名] 一般社団法人 福井県眼鏡協会	[期間] 2024年7月～2025年3月	[研究体制] プロジェクト型	[担当教員] 矢島 幹生 講師 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	[参加学生] A GROUP リーダー 西田 恵美里 製品デザイン専攻3年 川端 鈴奈 製品デザイン専攻4年 岡 璃雄 製品デザイン専攻3年 木村 環希 製品デザイン専攻3年 多田 千尋 製品デザイン専攻3年 前川 楓果 インダストリアルデザイン専攻2年 見神 隆之介 インダストリアルデザイン専攻2年 西木場 友希 インダストリアルデザイン専攻2年 吾妻 愛太郎 インダストリアルデザイン専攻2年 鈴木 優花 インダストリアルデザイン専攻1年	B GROUP リーダー 山田 真由 製品デザイン専攻4年 栗原 優佳 製品デザイン専攻3年 北山 愛理 製品デザイン専攻3年 戸塚 昂 製品デザイン専攻3年 川崎 卓 製品デザイン専攻3年 道林 南美 インダストリアルデザイン専攻2年 太田 聖華 インダストリアルデザイン専攻2年 田村 侃 インダストリアルデザイン専攻2年 王 美鳳 インダストリアルデザイン専攻1年 佐藤 あすか インダストリアルデザイン専攻1年 杉本 紬 インダストリアルデザイン専攻1年 三宅 航 インダストリアルデザイン専攻1年	C GROUP リーダー 畝野 遥 製品デザイン専攻3年 篝 佑伽 大学院 デザイン専攻2年 加藤 更咲 製品デザイン専攻3年 小島 静月 製品デザイン専攻3年 福田 結菜 製品デザイン専攻3年	D GROUP リーダー 山西 優心 製品デザイン専攻3年 坂東 凜汰朗 大学院 デザイン専攻1年 稲葉 紀乃 製品デザイン専攻3年 川本 亜花 製品デザイン専攻3年 児玉 結音 製品デザイン専攻3年 森 頌真 インダストリアルデザイン専攻2年 山内 はんな インダストリアルデザイン専攻2年 山下 一颯 インダストリアルデザイン専攻2年 河野 初夏 インダストリアルデザイン専攻1年 坂野 衣咲 インダストリアルデザイン専攻1年 寺山 映人 インダストリアルデザイン専攻1年 廣渡 桃華 インダストリアルデザイン専攻1年	[開発日程] 2024年 4月～ 4月26日 5月8日 7月25日 8月22日 9月22日 10月17日 11月2日～4日 10月～2月	部員募集 活動内容ガイダンス 活動キックオフ、顔合わせ、メンバーグループ分け 眼鏡協会向けオンラインプレゼンテーション モデル制作 鯖江市の眼鏡関連企業工場見学、意見交換会 最終プレゼンテーション 優秀案はめがねフェスステージで表彰 iOFT 国際メガネ展出展・視察 美大祭でパネル展示 採用案設計フォロー

サラヤと対馬市が取り組む「ブルーオーシャン対馬」プロジェクトの一環として、金沢美術工芸大学デザイン科では、今年度の「スタートデザイン」課題として「海洋プラスチック問題にみんなで向き合うきっかけをつくるデザイン」に取り組んだ。8チームが提案を行い、サラヤと対馬市による協議の結果、「おとーしゃと想いの波」のデザインが採用された。8月には対馬市での視察体験ツアーに参加し、9月以降、具体的なデザイン制作を進めた。このプロジェクトの成果は、2025年6月22日～23日に開催される大阪・関西万博「ブルーオーシャンドーム」にて、プレゼンテーションおよびワークショップとして発表をおこなう予定。



今回の取り組みで提案された「おとーしゃ」のキャラクターが、対馬市が取り組む活動のシンボルとして今後も展開が期待されている。



対馬の海岸の海洋ゴミ



対馬でのミーティング



スタートデザイン



スタートデザイン

[委託者名] サラヤ株式会社 対馬市	
[期間] 2024年4月～2025年3月	
[研究体制] プロジェクト型	
[担当教員] 寺井 剛敏 教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	
北村 賢哉 教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	

[参加学生] 坂口 歩 視覚デザイン専攻4年	
武部 由季 視覚デザイン専攻4年	
朝倉 文子 環境デザイン専攻4年	
中 亮光 環境デザイン専攻4年	
神谷 門渡 ホリスティックデザイン専攻1年	
桜井 萌華 ホリスティックデザイン専攻1年	
西岡 千沙 ホリスティックデザイン専攻1年	
古屋 和花 ホリスティックデザイン専攻1年	
山崎 陽葵 ホリスティックデザイン専攻1年	

[開発日程] 2024年 4月9日 スタートデザイン事前確認 (美大施設)	
4月10日	スタートデザインオリエンテーション (サラヤ、対馬市より参加)
4月19日	スタートデザインプレゼン (サラヤ、対馬市より参加)
5月10日	各チーム企画案 A4フォーマット送付、 社内で協議
6月5日	6班「おとーしゃと想いの波」で決定！

8月20日～22日	対馬視察体験ツアー
10月～12月	企画検討、キャラクター デザイン制作など
2025年 1月～3月	大阪・関西万博に向けて データ作成等

誰もが一度は、お菓子のパッケージにつられて思わず手を伸ばし、購入した経験があるのではないだろうか。商品のパッケージデザインは、売上を左右する重要な要素の一つである。お菓子業界は、時代や社会の変化に伴って消費者の嗜好が移り変わり、製品の入れ替わりが激しい業界でもある。2024年度のプロジェクトでは、「金沢の文化」に着目し、伝統と現代感覚を融合させた“ネオ和菓子”の開発に取り組んだ。雛壇飾りに彩りを添える砂糖菓子「金花糖」や、加賀藩が徳川家に氷を献上していた歴史に由来する「氷室開き」など、地域に根ざした文化を手がかりに、金沢らしさを表現する独自性を探求した。



和菓子の定義を問い直し、若い世代にも思わず手に取ってもらえるような、美味しさと楽しさが伝わる新たなスタイルを模索した。学生たちは、企画からネーミング、パッケージデザインに至るまで一貫して担当し、地域文化を未来につなぐ新しい和菓子の可能性を提案した。



最終プレゼン



最終プレゼン



[委託者名] 馬場化学工業株式会社	
[期間] 2024年4月～2025年3月	
[研究体制] プロジェクト型	
[担当教員] 畠野 裕司 教授 デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	

[参加学生] 川合 理恭 環境デザイン専攻3年	
大門 千隼 環境デザイン専攻3年	
西村 菜子 ホリスティックデザイン専攻2年	
三代 壮良 ホリスティックデザイン専攻2年	

[開発日程] 2024年 7月1日 キックオフ MTG	
8月22日	ZoomMTG
10月21日	フラッシュアイデア発表会1
11月13日	フラッシュアイデア発表会2
11月28日	ラビットモデル確認1
12月16日	ラビットモデル確認2
2025年 1月14日 中間デザインプレゼンテーション	

1月22日	ラビットモデルのリアル評価会
2月6日	最終デザインプレゼンテーション

東北レインボーハウスは2011年の東日本大震災で家族を失った子どもたちの心のケアの拠り所として、あしなが育英会が仙台、石巻、陸前高田の3箇所で開催を行っている。

この事業は製品デザイン専攻の有志の学生たちと三谷産業が2016年に「ものづくりワークショップ」を石巻レインボーハウスで開催したことが始まりで、以降毎年ワークショップを開催してきた。参加学生たちは、ワークショップの全体プランの計画、準備、制作、実施までを行っている。ワークショップは毎年新たな内容を考え、今年度はレーザーカットの亚克力による花と花器、名前キーホルダー、角材を染めて作った

スツールと、来年へのメッセージを入れるポストの制作、3Dプリンターで制作したミニカーに絵を書いて走らせるワークショップを行った。この5つのワークショップは、子どもたち、保護者、ファシリテーターを参加者とし、それぞれが自由に制作物を作れるように、他の参加者の制作の様子を感じながら制作できるように、体育館の大きな空間に集めた形で開催し、最後に全員が作った作品を集めて展示をおこなって、ワークショップを終えた。



レーザーカットした亚克力のパーツで花と花器を制作



ワークショップ会場の様子（スツール制作）



3Dプリントした車モデルにオリジナルペイントをして走らせる



NCで切り出したシナ合板のパーツを自分で染色してスツールを制作



参加者各々が角材を染めてみんなでメッセージポストを制作

[委託者名] 三谷産業株式会社	
[期間] 2024年4月～2025年3月	
[研究体制] プロジェクト型	
[担当教員] 安島 諭 教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	

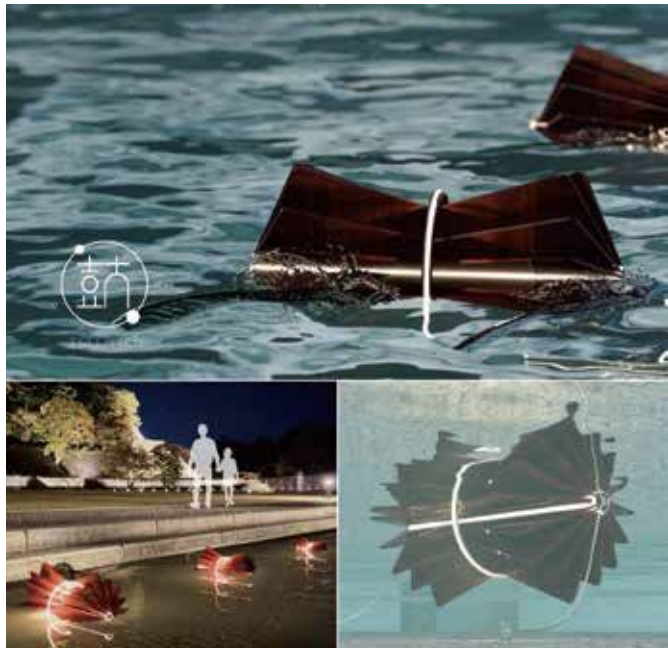
[参加学生] 坂東 凜汰朗 大学院 デザイン専攻1年 亀田 あかり 製品デザイン専攻4年 山田 真由 製品デザイン専攻4年 泉 泰平 製品デザイン専攻3年 山西 優心 製品デザイン専攻3年 伊藤 はな 環境デザイン専攻3年 藤井 七星 インダストリアルデザイン専攻2年 三澤 仁実 インダストリアルデザイン専攻2年 道林 南美	
--	--

[開発日程] 2024年	
4月23日	キックオフミーティング
5月16日	企画案調査報告会
5月30日	企画案プレゼンテーション
6月5日	企画案のフィードバック
6月13日	実施案ミーティング
6月24日	実施案実験
7月4日	実施案ミーティング
7月16日	実施案ミーティング
7月26日	プレゼンテーション準備
7月27日	仙台会場下見・打ち合わせ
7月28日	被災地視察

8月16日	制作ミーティング・制作開始
9月1日	フライヤー送付
10月17日	制作ミーティング
10月24日	最終確認ミーティング
11月1日	材料・説明書発送
11月9日	ワークショップ開催
2025年	
2月3日	記念色紙の制作・送付

三菱電機株式会社との共同研究は、「中核都市における社会課題とその解決策」をテーマに、中核都市が直面する課題を、将来を担う世代や人材の視点から可視化し、地域住民や自治体と協働しながら解決策を検討・協議することを目的としている。その舞台となるのは金沢市で、学生たちは自らの視点で課題を抽出し、独自の視点から解決策を可視化・提案する。授業の中ではデザイン思考プロセスをベースにしたワークショップを4回開催した。それぞれのフェーズにおいてリサーチやフィールド調査、ペルソナの定義、インタビュー、アイデアのブラッシュアップ、プロトタイプ作成を繰り返す中で、金沢の交通、文化、教育、

観光、健康推進など、幅広いテーマに対する様々な手法のソリューションが提案された。さらに、本年度は金沢市の大学連携地域力創造プロジェクトと連携し、金沢市のバックアップを受けることで調査内容の精度を高めることが可能となり、よりリアリティのある提案が可能となった。いくつかの提案については技術的サポートを受けながら継続的に検討される予定で、実証実験や社会実装に向けた計画が進行中である。



金沢市に流れる用水の魅力の再発信・活用



事前課題の発表



ソリューションアイデア発表



最終プレゼンテーション



金沢美大校内 成果物展示

[委託者名] 三菱電機株式会社	
[期間] 2024年7月～2025年3月	
[研究体制] 授業導入型	
[担当教員] 入矢 真一 教授 デザイン科 インダストリアルデザイン専攻	

[参加学生] 西山 誌織 大学院 デザイン専攻2年 石垣 為智 製品デザイン専攻3年 泉 泰平 製品デザイン専攻3年 稲葉 紀乃 製品デザイン専攻3年 畝野 遥 製品デザイン専攻3年 岡 璃雄 製品デザイン専攻3年 北山 愛理 製品デザイン専攻3年 加藤 更咲 製品デザイン専攻3年 川崎 卓 製品デザイン専攻3年 川本 亜花 製品デザイン専攻3年 菊地 哉太 製品デザイン専攻3年 木村 環希 製品デザイン専攻3年 栗原 優佳 製品デザイン専攻3年	
--	--

小島 静月 製品デザイン専攻3年	10月16日	WS2 気づきの抽出、ペルソナ設定
多田 千尋 製品デザイン専攻3年	10月24日	WS3 HMWQとアイデア展開
戸塚 昂 製品デザイン専攻3年	11月14日	WS4 インタビューとプロトタイピング
西田 恵美里 製品デザイン専攻3年	11月28日	最終プレゼンテーション
福田 結菜 製品デザイン専攻3年	12月16日～24日	学内成果物展示
山西 優心 製品デザイン専攻3年	2025年	
	2月20日	金沢市プレゼンテーション
	2月20日～28日	金沢市役所第二本庁舎展示
	9月24日	産官学キックオフ
	9月～10月	事前リサーチ
	10月1日	WS1 事前課題共有

本研究室の研究テーマの「アソビ」の根源に最も近い“赤ちゃん”の感覚、興味、喜び、がどのようなものかの知見を、日本有数の育児用品総合メーカーのビジョン社から得ることで、制作するグラフィックに入れ込む要素の効果検証などを行って行きたいと考えた。今回は学生からグラフィック作品を募集し、「美術の基礎を学んだ学生の純粋な感性」と、「デザインの思考からくる考察と狙い」を赤ちゃんが評価することで、大人の思いもよらない気づきと面白さが発見できるのではないかと思い、制作をスタートする前に、ビジョン社に講義をしていただき、取り組み方をインプットしてもらえたことで、闇雲に制作するのではな

く、赤ちゃんについてそれぞれが理解し、赤ちゃんが興味を持つためにはどうしたらいいか、検討できたと思う。それぞれのアプローチが見られることを期待し、2023年10月に赤ちゃん審査を実施した。2024年度は選定されたグラフィックをビジョンの広報物や、製品へ活用した。



作成したアニメーション



配布されたポストカード



2023年の審査の様子



2023年の審査の様子



Instagram イベントの様子

「若者が自分たちの未来をデザインする」をテーマに地域の活力や財源が最大限発揮されるよう支援・活動し、地域でのSDGsの実践を目指す。2024年1月1日に起きた令和6年能登半島地震の復興支援として学生がデザインする能登半島の商品をふるさと納税ポータルサイトなどで掲載。



久世酒造見学の様子



ハイディワイナリーの見学の様子



久世酒造 日本酒パッケージ



のとのファクトリー ジャムパッケージ



ハイディワイナリー ワインパッケージ

〔委託者名〕
ビジョン株式会社

〔期間〕
2024年4月～10月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
樺島 脩 講師 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
石木 二葉 ホリスティックデザイン専攻2年
出雲 涼菜 ホリスティックデザイン専攻2年
中尾 涼夏 ホリスティックデザイン専攻2年

〔開発日程〕
2024年
7月23日 オリエンテーション
概要、デザイン条件等説明
8月19日 中間報告
8月30日 プレゼンテーション

〔委託者名〕
株式会社チェンジホールディングス

〔期間〕
2024年7月～2025年3月

〔研究体制〕
プロジェクト型

〔担当教員〕
樺島 脩 講師 デザイン科
ホリスティックデザイン専攻

〔参加学生〕
大谷 周 大学院 デザイン専攻1年
舩田 一葉 視覚デザイン専攻3年
山下 尋 視覚デザイン専攻3年
外山 晴菜 視覚デザイン専攻3年
三隅 玲那 視覚デザイン専攻3年

〔開発日程〕
2024年
10月16日 キックオフ
10月23日 久世酒蔵 視察
10月28日 ハイディワイナリー 視察
11月25日 中間発表
12月23日 プレゼン

1950年代、歴史的巨匠 Pierre Jeanneret（ピエール・ジャンヌレ）が、インドのチャンドーガル都市計画の際にデザインした家具シリーズ「プロジェクト・チャンドーガル」のオマージュをステンレスの特性を生かして製作したいという相談を富山県のステンレス加工が得意な三秀工業株式会社から依頼を受け開発協力を行った。オリジナルは、シンプルかつ実用的なデザインが特徴的で、特にV字型の脚は、ピエール・ジャンヌレの椅子の象徴である。見た目の美しさだけでなく座り心地や使用する人の快適性を考慮して設計されている。また、材料にはチーク材や藤などの自然素材が使用されており、現地での生産性にも配慮されてい

る。これらの思想を尊重し、椅子のデザインに取り組んだ。ステンレスでは、座り心地が硬く冷たい印象を与えてしまうため、人間工学的観点から背座の角度やカーブを検討し直し、パンチング処理を行い冷たさの軽減と重量の軽量化を実現した。構造的にもステンレスならではの加工や溶接技術を生かし、量産性を高めるためにボルトの数を減らし、外観からは一切見えないように工夫し高いクオリティーを実現できた。表面仕上は、ステンレス特有の処理を行い屋外でも使用できるようにした。今後、品揃えの展開や販売ルートの検討を行っていく予定である。



屋外での使用の様子



背面のパンチングと脚部の高度な溶接



座面のパンチングと肘部の高度な溶接



人間工学を考慮したプロトタイプ試作

〔委託者名〕

三秀工業株式会社

〔期間〕

2024年11月～2025年3月

〔研究体制〕

プロフェッショナル型

〔担当教員〕

根来 貴成 教授 デザイン科
インダストリアルデザイン専攻

〔開発日程〕

2024年

12月2日 三秀工業株式会社工場見学、打ち合わせ

2025年

1月14日 1次試作図面完成、打ち合わせ

2月10日 1次試作、現物プロトタイプ打ち合わせ

2月27日 1次試作修正図面提出

3月26日 2次試作、現物プロトタイプ打ち合わせ

連 携 協 定 事 業

A09	金沢大学との連携事業 能登復興支援 「のと もっと！ あっと けんとしょ！」	44
A10	金沢大学との連携事業 能登復興支援 「のともっと デッサン交流会」	45
A11	北陸銀行 金沢中央支店における作品展示	46

金沢美術工芸大学と金沢大学は、2024年1月1日に発生した能登半島地震で甚大な被害を受けた能登地方に対して、連携してできることを模索し始めたが、今回の被害はあまりに大きく、まずは私達が能登に対して心を寄せていることをせめてもお伝えすることとした。石川県立図書館のご協力も得て、旧暦の七夕である8月10日（土）に石川県立図書館を会場に、祈りを込めた七夕飾りを作ることとした。金沢大学から竹、笹が提供され、金沢美術工芸大学の学生団体「ワークショップ部ちきゅう」は石川県の形や、能登の祭りのきりこ、七尾の和ろうそく、能登牛の形の短冊を作り、独特な七夕飾りが出来上がった。500名を超える



祈りを込めて



学生が制作したポスター



能登のことを知ってもらうためのパズル



参加者の思いを込めた七夕飾りは13日までそのまま飾られた。
当日は学生たちが作った能登の市町のことを知ってもらうパズルで子どもたちに遊んでもらったり、会場を訪れた能登出身の方たちに能登のことを教えてもらったりした。また、金沢大学の学生による夏休みの宿題相談コーナーも開設された。さらに、参加者に記念缶バッジを差し上げるとともに、募金への協力を求め、県立図書館を通じて能登半島復興義援金として届けた。

能登地区の中高生と大学生が美術を通して交流する機会として、のと里山空港ターミナルビルにある大学コンソーシアム石川能登分室で、デッサンのワークショップを開催した。
能登各地から中学生5名、高校生11名、計16名が参加し、両大学の学生ボランティア15名からデッサンの解説や、制作する中で具体的なアドバイスを受けた。初めてデッサンをする生徒が半分、経験したことがある生徒が半分という、バラエティに富んだ参加者で、学生からは個別に丁寧な声掛けが行われた。また、学生もデモンストレーションとして一緒にデッサンを行ったり、持参した学生の過去のデッサン作品な



能登各地から集まってくれた生徒と学生ボランティア



生徒は自分で選んだモチーフでデッサンに挑戦。両大学の学生が一緒にアドバイス。



石膏デッサンに初めてチャレンジする生徒も。



デッサン用の鉛筆の削り方から学ぶ生徒。



学生が制作したポスター（表面）

[期間]	<金沢大学>		松田 有加	芸術学専攻 2 年	[開発日程]	
2024 年 6 月～8 月	三浦 要	理事 (企画評価・地域共創・広報戦略担当)	松岡 千冬	油画専攻 2 年	2024 年	
		/ 副学長	堀田 陽生	ホリスティックデザイン専攻 2 年	6 月上旬～	両大学で協議を開始
[研究体制]	大村 雅章	教授 人間社会研究域学校教育系	上野 香絵	ホリスティックデザイン専攻 2 年	6 月下旬	「ワークショップ部ちきゅ
プロジェクト型	江藤 望	教授 人間社会研究域学校教育系	三原 初子	芸術学専攻 1 年		う」に協力要請
[担当教員]	[協力]		<金沢大学>		7 月上旬	両大学で学生を中心に企画
<金沢美術工芸大学>	金沢美術工芸大学事務局		安部 美有	学校教育学類 4 年	7 月 17 日	石川県立図書館との相談
寺井 剛敏 教授	デザイン科 ホリスティックデザイン専攻	金沢大学社会共創推進部地域共創支援課	岩間 純人	学校教育学類 4 年	8 月 9 日	金沢美大で事前準備 (能登パズルの仕上げ、缶バッチ の制作)
田中 蘭			田中 蘭	学校教育学類 4 年		金沢大学で竹、笹の準備
桑村 佐和子 教授	一般教育等	[参加学生]	竹中 萌	地域創造学類 4 年	8 月 10 日	9:30 ～ 16:00
大森 啓 教授	油画専攻	<金沢美術工芸大学>	山本 透弥	数物科学類 2 年		イベント実施
		本保 しおん 油画専攻 3 年	井口 絢日	学校教育学類 2 年	8 月 14 日	石川県立図書館から笹等 を回収
		長沖 純 油画専攻 3 年	大杉 咲嘉	学校教育学類 2 年		
		田中 菜々美 芸術学専攻 2 年	山本 夏未	学校教育学類 2 年		

[期間]	<金沢大学>		笠井 麟太郎	油画専攻1年	[開発日程]	
2024年12月～2025年3月	三浦 要	理事(企画評価・地域共創・広報戦略担当)	熊崎 啓太	油画専攻1年	2024年	
		/ 副学長	架谷 七海	油画専攻1年	12月中旬	両大学の教員間で相談を開始
[体制]	大村 雅章	教授 人間社会研究域学校教育系	兵藤 瑛美莉	油画専攻1年		
プロジェクト型	江藤 望	教授 人間社会研究域学校教育系				
	<金沢大学>				2025年	
[担当教員]	[共催]		蔵谷 保乃可	学校教育学類3年	1月中旬	学生ボランティアの募集
<金沢美術工芸大学>	金沢大学社会共創推進部地域共創支援課		堂田 歩未	学校教育学類3年	2月6日	金沢美大にて両大学の学生
寺井 剛敏 教授	デザイン科 ホリスティックデザイン専攻		深井 乙斗把	学校教育学類3年		と教職員での打ち合わせ
	[参加学生]		藤原 さくら	学校教育学類3年	2～3月	SNSを用いた意見交換
桑村 佐和子 教授	一般教育等	<金沢美術工芸大学>	井口 絢日	学校教育学類3年	3月26日	デッサン交流会の実施
大森 啓 教授	油画専攻	根本 数杜 日本画専攻2年	大杉 咲嘉	学校教育学類2年		
		山本 一葉 油画専攻2年	山本 夏未	学校教育学類2年		
		松田 有加 芸術学専攻2年	角平 諭美	学校教育学類2年		

本企画は本学と北陸銀行の連携協力に関する協定に基づき、学生の研究成果発表の場を提供するとともに、文化芸術を地域社会に発信する機会とするものである。

銀行内の応接室や会議室などに本学大学院修士課程絵画専攻学生の作品を展示することで職場環境に潤いを与えるとともに、行員はもとより来客等にも絵画を鑑賞する場を提供し、芸術による豊かな空間を創出している。



作品展示作業



大塚 光子 「よるの石引交差点」



崔 由依子 「春、待つ」



松崎 瑞歩 「水飲み場」



小村 かのこ 「風」

〔委託者名〕

株式会社 北陸銀行 金沢中央支店

〔期間〕

2024 年 11 月～ 2025 年 11 月

〔研究体制〕

プロジェクト型

〔担当教員〕

松崎 十郎 教授 美術科 日本画専攻

三浦 賢治 教授 美術科 油画専攻

〔参加学生〕

大塚 光子 大学院 絵画専攻 1 年

崔 由依子 大学院 絵画専攻 1 年

松崎 瑞歩 大学院 絵画専攻 1 年

小村 かのこ 大学院 絵画専攻 1 年



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

公立大学法人 金沢美術工芸大学

〒920-8656 石川県金沢市小立野2丁目40番1号

TEL 076-262-3531 FAX 076-262-6594

<https://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

2-40-1 Kodatsuno, Kanazawa, Ishikawa

920-8656, Japan

TEL +81-76-262-3531 FAX +81-76-262-6594

